

日本講談協会 会長
かんたぐれない

神田紅まむる川講談会

創作講談

「真室川音頭の女 近岡ナカエ物語」

古典講談

「お富与三郎」



祝 真室川駅開業

120
周年

創作講談

「燭台切光忠」



祝 神田真紅改メ

三代目 松林伯知

日時

令和6年 **8月31日(土)**

17:30開演 (17:00開場)

会場

真室川町中央公民館大ホール

◇入場整理券 入場は無料ですが、下記の場所で事前配布する入場整理券が必要です。

真室川町役場 真室川町中央公民館 安楽城・釜淵・及位の各総合施設

主催

真室川町

●お問合せ／企画課 Tel.0233-62-2050

ごあいさつ

令和三年度に初開催した講演会も、早いもので四回目を迎えます。これまで、「郷土の英傑 鮭延越前守秀綱公一代記」、真室川音頭生みの親である近岡ナカエさんの人生を「真室川音頭の女 近岡ナカエ物語」と題しご公演いただきました。いずれも当町ゆかりの人物を題材に、町内出身の黒坂和弥さんに脚本を書き上げていただき、多くの皆様より高い評価を頂戴しました。近年ますます盛り上がりを見せる講演の世界に浸り、本物の文芸にふれていただく機会として、今年度も「神田紅 まむろ川講演会」を開催します。名調子の熱い語りを、生でお楽しみ下さい。

真室川町長 新田 隆治

神田紅プロフィール

福岡県出身。修猷館高校卒業、早稲田大学商学部中退後、文学座付属演劇研究所を経て女優の道を歩き始めるが、



昭和54年講師・二代目神田山陽の語り口と講演の魅力にとりつかれ門下生となり神田紅を名乗る。平成元年真打昇進・本牧亭にて昇進披露興行。その特異なキャラクターを活かした「芝居講演」という新しいジャンルを開拓、明るく楽しく分かりやすい芸風で、古典から現代ものまで幅広い作品を得意とする。

講演のほかにも、女優、映画評論家、エッセイスト、レポーターとしても活躍。

平成14年紅一門を旗揚げし、現在弟子は5人。

講演の普及のため講演教室「紅塾」で東京、福岡合わせて100余名の生徒を熱心に指導している。

平成13年々全日空機内寄席のパソナリテイー。

平成22年日本講演協会会長。

平成29年度台東区「スターの字型」顕彰。

現在NHKラジオ深夜便ミッドナイトトーク偶数月第一水曜日出演中。著書に「紅恋源氏物語」、「語って紅伝」、「女の独り立ち」、「紅流」など。

三代目 松林伯知プロフィール

茨城県出身。東京女子大学文学部史学科卒業後、落語・演芸誌の編集者として働きながら講演教室「紅塾」に通うようになる。



平成21年 神田紅一門に入門し、神田真紅を名乗る。平成25年 二ツ目昇進。古典をこなす一方で、歴史好きを活かした幕末から昭和の人物伝、文化史に加え、アニメ、ゲーム、昭和歌謡、映画などを題材にした新作講演も手がける。

令和6年3月 真打昇進。「三代目松林伯知」を襲名。5月から新宿末廣亭を皮切りに真打昇進襲名披露興行を行っている。

NHK「日曜バラエティー」(令和元年まで)、webラジオ「ファミコン名人への道」出演中。

◆◆真室川音頭の由来◆◆

明治の頃、北海道を中心に歌われた「ナット節」が大正末頃から本州の漁港でも歌われるようになりました。昭和の初め、これを習い覚えた真室川町出身の近岡ナカエさんが創作して歌ったのが「真室川音頭」の始まりと言われています。

昭和の初めに隆盛をほこった真室川鉾山に働く人々に盛んに歌われ、戦後「真室川小唄」として全国的に広まりました。

さらに、昭和26年にビクターレコード専属歌手の伊藤かづ子さん(金山町出身)の歌声ではじめてレコード化され、翌年には町が広く歌詞を募集し、数十点の応募の中から選り抜かれたものが正調「真室川音頭」とされました。

その後も多くの人気歌手によってカバーされ、またアレンジ曲も生み出され、「真室川」の名が全国的に広まりました。現在でも日本の代表的な民謡のひとつです。



演 目

◇神田 紅くれなゐ

●開口一番「講演やつてみまショー」
「お富与三郎」より

◇黒坂和弥

●「講演の魅力語る」

講演の面白さや魅力を、「真室川音頭の女 近岡ナカエ物語」原作者の黒坂和弥氏に語っていただきます。

◇神田 紅

●古典講演「お富与三郎」

大店の若旦那、与三郎はお富と恋仲になるが、お富は土地の親分・赤馬源左衛門の情婦だった。このことを知った親分は、出かけるふりをして二人の現場に踏み込んで…。

お仲間入り

●三代目 松林伯知

真打襲名披露口上

◇松林 伯知

●創作講演「燭台切光忠」
しよくだいぎりみつただ

独眼竜として知られる奥州の若き覇者・伊達政宗。しかし天下はいよいよ秀吉のものとなり、失意のうちに過ごしていたある一日、一振りの名刀と巡り会う。この刀が、やがて政宗を騒動に巻き込む事になるのだが…。

◇神田 紅

●創作講演

「真室川音頭の女 近岡ナカエ物語」